**会　議　要　旨**

|  |  |
| --- | --- |
| 会　議　名 | 令和元年度　館山市コーラル会議 |
| 開　催　日 | 令和元年７月２４日（水）午後２時～４時１５分 |
| 開催場所 | 館山市役所　本館２階会議室 |
| 出席者 |  [委員(敬称略　５０音順)]合計１３名（欠席　１名）飯島マルティーヌ　石井 敏宏　　石渡 秀嗣　　井田　友海　　坂井　雄貴鈴木　ひとみ　　庄司　友之　　滝口 力　　土岐　明美　　羽山　敏雄　 室 厚美　　本橋　朋子　　盛島　岳[市]館山市長（途中退席）総合政策部企画課　亀井課長、臼井政策係長、秋山主事 |
| 公開・非公開の別 | 公　開 |
| 傍聴人数 | １名（定員１０名） |
| 会議内容議事進行滝口会長（事務局）（事務局）（事務局）（事務局）（事務局）（事務局）（事務局）（事務局） | **１．開会****２．市長挨拶****３．第１１期コーラル会議会長及び職務代理者の改選**互選により、第１１期会長に滝口力委員を選出した。　会長の氏名により、第１１期職務代理者に飯島マルティーヌ委員を選出した。**４．議事****（１）第４期館山市男女共同参画推進プラン取組み評価について**【事務局より】・平成３０年度の取組み内容や進捗状況についての事務局報告。総取組み数１１７に対し、９６の取組みについてＡ評価（大いに取り組んだ）又はＢ評価（取り組んだ）と評価し、Ｃ評価は２１という結果となった。・Ｃ評価の項目を見ると、事業者への啓発が特に弱いということを窺える。【ご意見・ご質問】●男女共同参画推進の総括である企画課の取組みで、Ｃ評価があるのはいかがなものか。まずは、担当課がＣ評価をなくしていくべきである。●ＬＧＢＴ等の理解を深めるという項目について、Ｃ評価であるが、企画課としてはどのような取組みを行ったのか。⇒昨年度は、啓発等にほとんど取り組むことができなかったためＣ評価をつけた。取り組むべき課題は認識しているので、段階を踏んで進めていく予定。●取り組んだかどうかよりも、取組みによって得られた成果について適正に評価できるようにするべき。ＬＧＢＴの項目で、企画課がＣ評価であって、教育総務課でＡ評価であるが、どのように評価されているのか。⇒各課での自己評価であり、更にＡＢＣ三段階という大まかな基準であるため、評価をしづらい点もある。適正に評価できるように、評価方法や基準について改善に努める。●館山市職員の女性管理職の人数を教えていただきたい。⇒部長職はおらず、課長職は１名。資料がないので、詳細は別途お知らせする。●市役所内に沢山の役職があって、女性管理職が１名ということは、適正な人事がされていないということではないか。是非適正な人事をお願いしたい。●男性職員で、どれだけ育児休暇を取得する職員がいるのか。以前、育児休暇を取得した職員がいるが、その後、取得した職員はいるのか。⇒近年中で育児休暇を取得した職員は、１名のみ。その後、男性で育児休暇を取得する職員は増えていない。●是非、男性でも気軽に育児休暇を取得できる環境整備を行っていただきたい。**（２）審議会等における女性委員割合について**【事務局より】・本市の審議会等における女性委員割合は、平成３１年４月１日現在２７．８０％（昨年度比０．８６％増）。理由としては、昨年度委嘱のなかった審議会において新規委嘱を行い、女性の比率が高かったため。その他は横ばいである。【ご意見・ご質問】●館山市いじめ問題対策連絡協議会は、女性の委員がゼロである。いじめという重大な問題を扱う審議会において、委員に偏りがあるのはおかしい。●子どもにとって一番近い存在は母親。多角的な面から議論できるように、様々な人材を登用するべきである。●なぜこのような体制になってしまったのか。⇒ほとんどを学校長で構成されているため、意識的に女性を登用することができない。●昨年は女性委員がいたようだが。⇒学校長をあて職にしており、去年いた女性の校長がいなくなったということである。●委員の多数を学校長で構成すること自体に違和を感じる。学校関係者が多数占めるということは、一方的な議論になりかねない。教育総務課に対し、改善を強く要請していただきたい。⇒今回いただいたご意見は、各担当課に報告し、改善方法を検討していただく。●あて職は、大体は団体のトップが充てられており、決まった人しか出てこない。意見にも偏りが生じる。公募制を義務化することはできないのか。●審議会委員の選任については、公募制や無作為抽出を積極的に導入していただきたい。このような方法で選出することが、新たな人材の発掘に繋がることもある。**（３）令和元年度事業計画案**【事務局より】・「事業者向け女性活躍推進セミナー」の開催予定（１０月１１日）について・千葉県地域推進員事業について　◆中学校出前講座（１１月１３日開催予定）会場：翔凛中学校（君津市）　（１１月２２日開催予定）会場：袖ケ浦市立蔵波中学校（袖ケ浦市）【推進委員より補足】・中学校において寸劇を通して男女共同参画の推進を図っているが、開催地域は持ち回りなので、毎年館山市内で開催できるわけではない。毎年市内中学校で開催できるように、コーラル会議の委員でも寸劇をやってみても良いと考えている。**（４）その他**【ご意見】・過去２０年間、国や自治体が男女共同参画社会推進に取り組んできたに関わらず、日本の国際的評価が低いのはなぜか。まず、国民の象徴たる天皇の皇位継承が男系男子に限られている。公務員の時間外給与や、障害者雇用の問題でも同様であるが、男女共同参画の旗振り役である国や自治体が「建前」ではなく「本音」で問題に取り組まなくては抜本的な改革は進まない。**５．講話「多様な性のあり方～館山市を誰もが自分らしく暮らせるまちに～」**　講師：亀田ファミリークリニック医師　坂井　雄貴　氏　内容：ＬＧＢＴの相互理解について。なぜ行政で進めるべきなのか。【ご意見・ご質問】・ＬＧＢＴについて知ることができ、非常に良い機会になった。・ＬＧＢＴは人権であり、子どもの頃から伝えていくべき内容である。・学校への啓発は、まずは形から。周りに理解を得られない段階から１人で旗を振って進めても、せっかくの良い取組みが受け入れられずに終わる可能性もある。・人口の数だけ性のあり方があるといった点は、発達障害等も似ている。子どもによって反応が違い、子どもの数だけ生き方がある。枠にあてはめず、自分らしく生きる支援が必要。・発達障害の人口についても、ＬＧＢＴと同じくらいの割合（7％）と言われている。・まずは「館山で何かやっているぞ」と思わせることが大事。取り組めそうなことから取り組んでいくべきである。・取り組んだことは周知をしていくべき。それがＬＧＢＴの方々への大切なメッセージ　になる。・パートナーシップ宣誓制度を進めて、頓挫した自治体もある。現場がついていけなか　ったり、市民が理解していなかったから。段階を踏んで進める必要がある。・パートナーシップ宣誓制度は、ＬＧＢＴの人だけでなく、入籍はしたくないけどパートナーとして認めて欲しいという人にも適応する制度である。・自分の性を自覚していない人は沢山いて、自分が何者かわからなくて苦しむ人もいるが、困っていない人もいる。大事なのは、困っている人が困っていると言える環境であるかどうかということ。・ＬＧＢＴを理解し、行政サービスを行っていくためには、職員研修は必須だろう。**６．その他**●コーラル会議は、計画の策定がない年は、年に１回のみの開催となる。本日は色々な議論がされた。ＬＧＢＴに関する啓発も進めていくべき。もう少し回数を増やして、審議していく場が必要ではないか。⇒審議会としての開催は、年１回と予定していた。何らかの形で会議を増やせるように考えていく。**５．閉会** |